

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・11月号・付録  
2010年10月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL(03) 5379-5521 / FAX(03) 5379-5510  
ホームページ http://www.houkon.jp/  
Eメール kondankai@houkon.jp  
編集・橋本 隆

## ギャラクシー賞上期締切迫る 50周年記念事業の骨子固まる

### 9月理事会報告

2010年9月28日、理事会を開催した。

#### ◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 上滝委員長

・第48回ギャラクシー賞上期9月8日締切分の応募が103本で昨年より増えている。選考は大変だが嬉しい限りである。  
・選考委員を一名強化したい。元NHK、現在は武蔵大学社会学部教授の戸田桂太氏である。ご了解を得たい。↓全員一致で了解。  
・選考基準を具体的に明文化しようとして検討している。案がまとまり次第、理事会に提出し、討議いただきたい。

・2月に開催した「ギャラクシー賞テレビ部門受賞番組を見て語り合う会」の2回目を今年も開催したいと考えている。川喜田理事を

担当に、前回実施した石井彰理事の助けを借りる予定。

〈ラジオ部門〉 桜井委員長

・今年の「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」の二回目を9月26日に、今年度大賞を取ったJ-WAVEの協力を得て、六本木ヒルズ森タワー40階「アカデミーヒルズ40」で開催した。素晴らしい環境の中で96名の参加者を迎え、盛会で終わった。今回は両作品とも若い人に大きな関心と呼んだ作品で、活発な意見交換が行われた。

〈CM部門〉 五井委員長

・9月15日に、CM委員会を開きました。新しく導入した「スパイダー」が大変大きな威力を発揮した。様々な使い方ができ、合評のやり方が様変わりした。

◇出版編集委員会―丹羽委員長  
・10月6日発行の11月号、特集は「放送の人材育成を考える」。人材育成は放送局にとっても制作会社にとっても極めて重要なテーマになっている。また、これから放送界に就職しようと考えている学生にとっても喫緊の問題。大学関係の皆様は学生に是非これを読めとおすすめてください。「旬の顔」は林遣都さん、「パーソン」は堀川恵子さん。12月号、テーマは「テレビCMは届いているか」で、久々にテレビCMを取り上げる。テレビCM広告費の減少とか、CM録画の飛ばしとか、ネットCMの増加とか、厳しい話題が多い中、使用方の工夫によってもっと大きい効果が得られるなど、積極的にテレビCMの力強さを取り上げていきたい。

「旬の顔」は戸田恵梨香さん、「パーソン」は、葉加瀬太郎さん。1月号は、ギャラクシー賞の発表号となる。  
◇その他―橋本専務理事

①入会の紹介  
・茂出木龍太氏、BSジャパン、TBS R&C、MXTV  
②正会員退会の確認 川本裕司氏、小針俊郎氏、品田雄吉氏、只野哲氏。

#### ③「スパイダー導入」の報告

・前理事会で最終決定を任せられていた「スパイダー導入の件」。入江理事の再交渉で新たに好条件が提示されましたので、導入を決定し、既に設置され、作動している。なお、この導入に伴い今まで新聞記事検索に利用してきた「EJネット」を解約の方向で先方と話し合いをしようと思っている。↓了承

#### ④職員採用の件

・応募された方々を面接し、1名に採用内定を出した。高橋秀樹氏です。11月中旬頃から先ずはインターンとして勤務していただき、双方合致すれば正式採用に進む予定。

#### ⑤プロジェクトリーダーのポジションについて

・改めて考えた末に、各選奨委員会委員長と同様とすることを提案します。定款上、職務内容上、委員会にするのは不都合な点があった。したがって、定款変更は行わず、理事会での確認がされたという形で今後運用したい。↓了解。

#### ⑥名刺の件

・専務理事の提案(略)。↓了解。

◇次回以降の理事会日程

### 会議記録

10月	10月27日(水)	
11月	11月30日(火)	
12月	12月21日(火)	
以上を決定し、8時散会した。		
【出席】	音好宏、橋本隆、上滝徹也、丹羽美之、桜井聖子、五井千鶴子、碓井広義、滝野俊一、飯田みか、石井彰、入江たのし、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、坂本衛、嶋田親一、稗田政憲、中島好登	
「8月」	4日	企画事業委員会
	19日	出版編集委員会
	23日	(選奨) ラジオ定例会部会
	30日	(選奨) テレビ月評会
「9月」	2日	財務プロジェクト
	14日	(選奨) ラジオ定例会部会
	15日	(選奨) CM定例会部会
	27日	(選奨) テレビ月評会
	28日	理事会
	30日	出版編集委員会

・ギャラクシー賞選考関係では、締め切りは9月30日、選考会は10月19日。CMは作品数が大変多く、委員の中で評価が分かれる。したがって、事前に推薦作品をデータで送っていただく。票数だけで決めるのではなく、議論を尽くして選びたい。そのため選考時間をできるだけ多く取れるよう工夫したいと考えている。

〈報道活動部門〉 碓井委員長

ギャラクシー賞関係は今募集中で、選考会は10月23日(土)。  
・3回目となる今年度の「テレビ報道活動・ギャラクシー受賞作を見て、制作者と語る会」を開催予定。11月13日(土)に昨年と同じ日大芸術学部放送学科の協力を得て、日大キャンパス内で行うべく準備している。6作品のうち、5作品の制作者の参加OKの返事をいただいている。北海道から2局、鹿児島から1局、大阪から1局、長野から1局、皆手弁当でいらしてください。

#### ◇前期報告に関して

・橋本専務理事―上滝テレビ部門委員長より報告のあった「評価基

準の明文て化(文章化)は、大変重要な作業かと思われる。当会定款第3条目的のところに掲げてあるが、ぜひ検討を進めたい事項である。テレビ部門に限らず、他の部門の委員会ででも検討に入っていたきたい。

◇企画事業委員会―中島事務局長  
・企画事業委員会は8月4日に開催した。

・シンポジウム部門。例年のごとく、今年度もシンポジウムを開催する。開催日、来年3月8日、会場都市センターホテルの予定。テーマに関しては、いくつか案が出てきている。来月4日の委員会で、講演2本、デイスカッション1本の内容で大枠を決め、年末までには講師等の出演交渉に入り、順次決めていきたい。

・出版部門―同日出版部門も開催し、記念事業関係の討議をした。案を作成し、専務理事に答申してある。後ほど専務理事から報告する。

◇記念事業プロジェクト報告―橋本専務理事

・記念出版に関して企画を委嘱された藤田委員長から答申案が出たので、そのおおよそを説明する。タイトル「放送はどう語られたか」放送批評

懇談会の50年」。刊行時期2013年5月(同年ギャラクシー賞贈賞式に間に合わせる)。体裁、A5判、約600ページ。発行部数1500(2000部。正会員、維持会員、記念パーティ参加者に記念配布、主要図書館、主要大学。希望者への販売も検討する。

〈編集方針(選定方針)〉

・藤田委員長が作成。10年ごとに区切り、10年で20本、選出。総計100本。選考者にコラム等のページを作り、選考内容、当時の放送界の事などの執筆をお願いする。選考委員候補者を発表。理事会の了解が得られた後、本人に依頼する。その他おおよその予算についても説明した。記念事業全体の事業予算が未確定で最終決定は難しいが、作業推進のためこれに関しても了解を得たい。

滝野理事より、「これからの時代、電子書籍化する事も検討したらどうか」との提案があったので、電子書籍化することを含めて提案された。

↓全員一致で承認。

〈「ギャラクシー賞50年史」の件〉

・タイトルそのまま。刊行時期2013年8月(第50回の選考結果を含

の件。50年事業時に変更・改革を含めて検討するとしてきた。そろそろ議論に入っていたきたいと思っている。選奨事業委員長の小田桐委員長に、その旨お伝えする。

〈トロフィ・表彰状の件〉

・永年使用してきたギャラクシー賞受賞者に差し上げてきたトロフィに関して、50回記念大会を機に再検討したい。この際新しい形のものに換えていくことに皆さんのご了解が得られるようならば、そのための作業計画を立てたいと思っている。↓全員一致で了解

それでは、記念事業委員会の永田委員を担当として、多分様々なお考えが皆様にあると思うので、議論の叩き台となるようなプランの作成をしていただくよう私から、お願いする。トロフィのみならず、賞状も一緒に検討していただく。

◇財務プロジェクト報告―橋本専務理事

・9月2日に会を開いた。厳しい経済環境の中、維持会員社の支持のおかげで大きな危機もなく進んでいる。更なる事業・活動の発展のため

に財政強化活動も必要である。様々な議論・意見・アイデアが出て実りある会となった。結論として、維持会員となつて放送批評という活動を支えてくださるような会社に対して1社ずつ丁寧に活動の意義をお知らせする活動を財務委員全員で行うことと結論した。テレビ局、AM局を中心に、活動の趣旨、今までの活動報告書をお送りし、一度検討願おうという作業を既に済ませた。後程、報告するが、嬉しいことに結果が出てきている。安心することなく、更に進めていく覚悟である。皆様の情報網にこういったことをお願いすることが適当と思われる会社・団体があれば、ぜひ教えてください。

◇今年度贈賞式・宴の反省会及び来年度案検討会報告―橋本専務理事

・嶋田理事、入江理事、中島事務局長、私で開いた。その冒頭、嶋田さんから演出担当責任者の役を引退し、入江氏にお願いしたいとの話があった。入江氏が受けてくださったので、贈賞式・宴演出責任者入江理事、選考責任者小田桐選奨事業委員長、予算を含む全体責任者専務理事

むため)体裁は「40年史」を踏襲、同体裁。①印刷物として刊行、②データベースとして公開、③その双方の形式とするか、検討してほしい。編集方針は既存の40年までの部分は踏襲し、その後の10年の資料を追加する。制作体制は、深川章氏に作業委託。↓体裁は③案とし、了解。

〈「ギャラクシー賞」データベースの件〉

ギャラクシー賞50年の蓄積をデータベース化したいと考えていたが、外部業者から条件によっては無償で委託を受けてもやりたいとの申し出があった。条件等確認のための交渉に入りたい。条件を確認した末、理事会に報告し討議を願う。↓全員一致で了解。

〈「GALAC」データベースの件〉

・「GALAC」は、来年2011年2月号で、通算500号を数えることになる。記念事業として今までのバックナンバーの全ての目次を、会のサイトにアップする。作業は、事務局スタッフが行う。なお、将来的にはデータベース機能も加味したい。↓全員一致で了解。

・ギャラクシー賞各選奨作品の名称

という体制で進めていきたい。

入江理事―来年2011年6月2日ウエスティンホテルでやるということで、ホテルの予約をした。今年の贈賞式・宴について関係者にご意見を求めたところ、何人かの方から、御返事をいただいた。その中に、「マイベストTV賞授与」が「宴」に移したことは厳しい意見があった。移したのは失敗で元に戻すべきだとの考えである。検討の結果、そうしたいと提案する。その際、今年も1時間半内で終わらせるとの目標で進めたが、少しオーバーした。来年は更に厳しい進行となる。開始時間等も今後検討したいと思っている。50周年と絡むが、基本的にはそれまでは今までの流れを踏襲し、大きな変更・新企画は考えていない。司会に関しては今年ラジオのDJパーソナリティ受賞者の方にやっていただくが、大変見事にやっていただき評判も高いので、次回もその路線で行きたいと思っている。

また、「宴」で各委員会中心でやったインタビュー企画は廃止したい。↓基本線了承。